

選択上のご注意

- 各種内装材に適した接着剤を、現場環境（気温、湿度、下地種類、下地状態）や使用目的に応じて選択してください。
- 床材施工時の接着剤の選定にあたってはP32・33「床用接着剤と床材の組合せ」とP34・35下地の確認STEP1吸水性と下地の種類・STEP2下地の乾燥状態の判断方法、弊社各種見本帳に記載している推奨接着材をご参照ください。

運搬ならびに保管上のご注意

- 重量物なので、取り扱いには十分ご注意ください。容器に漏れのないことを確かめ、落下や乱暴な取扱いは避けてください。また、荷崩れの防止を確実に行ってください。
- 輸送に関しては、消防法・船舶安全法などの法規に従った運送方法で行ってください。
- 凍結・直射日光を避け、容器を密閉し、5～35℃の室内で保管してください。一度開封した後に保管する場合は、密閉して保存し、早めにご使用ください。
- 幼児・児童の手の届かないところに保管してください。

使用上のご注意

- ご使用前に必ず商品容器・梱包に記載している使用上の注意事項をご確認ください。
- 用途以外には使用しないでください。
- 必要に応じて適切な保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用してください。
- 取り扱い後はよく手を洗ってください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は使用を中止し、空気のよい場所で安静にしてください。
- 蒸気を多量に吸引したり、誤って飲み込んだ場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した際は多量の水と石鹸で洗い、かゆみや炎症が残った場合は医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合、速やかに流水で15分以上洗ってから医師の診断を受けてください。またコンタクトレンズ着用の場合は、外して洗ってから医師の診断を受けてください。
- 作業衣についた場合、汚染された衣類は脱ぎ、再使用する場合はその前に洗濯をしてください。
- 液がこぼれた場合、乾いた砂やウエスなどで拭き取り回収してください。
- 開封した接着剤は速やかに使い切ってください。
- 残った接着剤・容器は、許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処分を委託してください。

施工上のご注意

壁紙用接着剤

- 壁紙によっては接着しにくいものもありますので、試験した上でご使用ください。
- モルタル・珪カル板などの下地は、シーラー処理してから施工してください。
- 下地は十分乾燥し、表面の汚れを落としてから施工してください。
- 希釈して使用する接着剤は指定の希釈率を目安に、また壁紙と下地の状態に応じて希釈してください。
- ジョイントからはみ出した時や、他の内装材に付着した時は、速やかに拭き取ってください。
- 施工後数日は空調の使用は避け、自然換気を行ってください。急激な温度・湿度の変化は目隙や剥がれの原因となります。
- 気温5度以下では性能が十分に発揮されないため使用を避けてください。

スマートジョイナーの施工方法については
こちらの二次元コードより施工要領書をご確認ください。



床材用接着剤

- 各接着剤指定の工具を使用してください。
- 下地の不陸・段差は必ず補修してください。接着剤での不陸調整は行わないでください。
- 床材によっては接着しにくいものもありますので、試験した上でご使用ください。
- 上澄み液が分離している場合は、よく攪拌してください。
- 所定の塗布量で、均一になるように塗布してください。
- オープンタイム・貼り付け可能時間は接着剤の種類・施工環境（温度・湿度など）によって変わります。一般的に高温時・湿度が低い時・風通しのよい場合・吸水性のよい下地の場合はオープンタイム・貼り付け可能時間は短くなります。特に冬場の低温時にはオープンタイム・貼り付け可能時間は極端に長くなり、接着不具合にもつながります。このような際は、ジェットヒーターなどで現場温度を確保する対策が必要です。
- 床材貼り付け後は十分に圧着してください。圧着不足は、膨れ・反り・突き上げ・剥がれなどの原因となります。
- 施工後は接着剤が十分硬化するまでは通行を制限し、直射日光や冷暖房などによる急激な温度変化や、重量物や椅子のキャスターなどの車輪によるしごきは避けてください。
- 接着剤が完全に硬化するまでは、表面洗浄・ワックス塗布など水の使用を避けてください。

ゴム系ラテックス形・アクリルエマルジョン形接着剤について

- 耐湿型の接着剤ではありません。水分率の高い下地や常に水を使用するような場所には使用できません。
- 低温時（10℃以下）では硬化が遅れ、完全硬化までには6～7日要しますご注意ください。
- 他に付着した場合は、きれいな水で直ちに拭き取ってください。

溶剤形接着剤について

- 溶剤形接着剤は、労働安全衛生法・消防法によって取り扱い方法・保管方法に制限があります。各種法令をご確認ください。
- 火気のあるところでは使用しないでください。
- 有機溶剤作業責任者立会いの下で使用してください。
- 室内の通気をよくし、換気を心掛けてください。
- 有機溶剤を多量に吸引すると、人体に影響を及ぼす場合があります。
- 下地に塗布した接着剤を容器に戻さないでください。
- 他に付着した場合はペイントうすめ液などで直ちに拭き取ってください。
- 溶剤の揮発ガスなどにより床材に膨れが生じる可能性があり、適切な塗布量・適切なオープンタイムで施工し、貼り付け後はローラーなどで十分に圧着してガス抜きを行ってください。